

『公開シンポジウム』

都市を災害から守る～阪神淡路大震災を原点として～

日時：2004年12月14日 10:00～16:30
場所：大阪市中央公会堂 大ホール（大阪市北区中之島1-1-27）
主催：近畿地方整備局、大阪府、大阪市、NPO法人大規模災害対策研究機構
共催：東海・東南海・南海地震津波研究会
目的：

来年1月で発生から10年目を迎える阪神・淡路大震災は、近代日本を襲った未曾有の大災害となり、都市直下型地震に対する防災対策は、抜本的な見直しを迫られた。一方、海溝型地震である東南海・南海地震は、100～150年の周期で繰り返し発生し、揺れや津波で大阪も大きな被害を受けており、国の地震調査研究推進本部は、30年以内に50～60%の確率で東南海・南海地震が発生すると予測している。

地震による被害を最小限にとどめるためには、行政機関の取り組みに加え、住民の連携による自助・共助が非常に重要である。

9月5日に近畿地方を襲った地震や、度重なる台風の来襲により住民の防災気運が高まる中、東南海・南海地震のメカニズムや地震に伴い発生する津波の特徴等、府民・市民の方々に知っていただき、阪神・淡路大震災を原点として、その教訓を活かしながら来るべき東南海・南海地震に備えていくため、公開シンポジウムを開催する。

内容：

10:00 開場・受付開始

10:30 開会 主催者代表あいさつ（近畿地方整備局）

（第1部）

11:00 基調講演 河田恵昭教授（京都大学防災研究所巨大災害研究センター長）
「都市を災害から守る～新たな視点・新たな対策～」

（第2部）

13:00 提言発表

- 1) 国土交通省近畿地方整備局 足立敏之 企画部長
- 2) 大阪府総務部危機管理室 清水幸弘 室長
- 3) 大阪市危機管理室 千福好伸 室長

14:05 パネルディスカッション

- ・パネラー 越山健治氏 人と防災未来センター専任研究員
- 原田賢治氏 京都大学防災研究所巨大災害研究センターCOE 研究員
- 徳平隆之氏 大阪市港湾局企画振興部
- 南荘 淳氏 阪神高速道路公団工務部
- 橋本徳昭氏 関西電力(株)土木建築室
- 鈴木弘幸氏 住友化学(株)大阪工場環境安全部
- ・コーディネーター 河田恵昭教授

16:30 閉会